

第139回気象記念日について
- 「気象業務はいま 2014」を刊行します -

平成26年6月1日(日)は、第139回気象記念日です。気象庁では次の記念行事等を行います。

- 1 第139回気象記念日式典を行います。式典の概要は別紙1-1、気象庁業績表彰受賞者は別紙1-2のとおりです。式典は報道機関に公開します(会場内での撮影が可能です)。
- 2 「気象業務はいま 2014」を刊行します。概要は別紙2-1のとおりです。

気象記念日は、気象庁の前身である東京気象台が明治8(1875)年6月1日に設立されたことを記念し、昭和17(1942)年に制定されました。

本件問い合わせ先：気象庁総務部総務課広報室
電話 03-3212-8341 内線(2117)

第 139 回気象記念日式典（概要）

1 日 時 平成 26 年 6 月 2 日（月） 11 時 00 分～11 時 40 分

2 場 所 気象庁講堂

3 式典次第

開式の辞

国歌斉唱

気象庁長官式辞

国土交通大臣あいさつ

国土交通大臣表彰

気象庁長官表彰

被表彰職員総代答辞

閉式の辞

平成 26 年 6 月 1 日付

第 139 回「気象記念日」 気象庁業績表彰受賞者名簿

【国土交通大臣表彰】

1. 船舶（気象通報） 1 隻

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し
気象業務の発展に寄与した功績

番号	被 表 彰 者		
	所 属	船 名	備 考
1	エム・オー・エル・シップマネージメント株式会社	相馬丸 殿	平成 23 年長官表彰

【気象庁長官表彰】

1. 気象行政の推進に寄与した功績 6 団体

番号	被 表 彰 者	功 績 事 項
1	霧島市長 殿	平成 23 年 1 月からの霧島山（新燃岳）の噴火に際し火山噴火予知連絡会「霧島山（新燃岳）総合観測班」の現地事務所設置に協力し観測・監視体制の強化と火山災害の軽減に貢献した功績
2	陸上自衛隊 西部方面ヘリコプター隊 殿	平成 23 年 1 月からの霧島山（新燃岳）の噴火に際し火山活動の監視に係る航空機観測に貢献した功績
3	海上自衛隊第 7 2 航空隊 鹿屋航空分遣隊 殿	同上
4	航空自衛隊航空救難団 芦屋救難隊 殿	同上
5	航空自衛隊航空救難団 新田原救難隊 殿	同上
6	航空自衛隊 春日ヘリコプター空輸隊 殿	同上

2. 委託観測所（団体） 35 団体

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被 表 彰 者
1	ひだかもんべつ 日高門別	日高西部消防組合消防本部 殿
2	おのにいまち 小野新町	小野町長 殿

番号	観測所名	被表彰者
3	くすまき 葛巻	葛巻町役場 殿
4	はらまち 原町	相馬地方広域消防本部南相馬消防署長 殿
5	はちもり 八森	八峰町教育委員会 殿
6	おもと 小本	岩泉町役場 殿
7	もおか 真岡	栃木県立真岡北陵高等学校 殿
8	くろいそ 黒磯	栃木県農業試験場原種農場黒磯農場 殿
9	たかねざわ 高根沢	栃木県立宇都宮白楊高等学校高根沢農場 殿
10	かぬま 鹿沼	鹿沼市水道施設課 殿
11	とちぎ 栃木	栃木県立栃木農業高等学校 殿
12	おやま 小山	日本たばこ産業株式会社葉たばこ研究所 殿
13	うしく 牛久	市原市 殿
14	こいで 小出	魚沼市消防本部 殿
15	いといがわ 糸魚川	糸魚川市民会館 殿
16	きりいし 切石	身延町役場 殿
17	はちまん 八幡	郡上自動車学校 殿
18	かなやま 金山	下呂市金山振興事務所 殿
19	おかざき 岡崎	愛知県立農業大学校 殿
20	いちのみや 一宮	穴粟市長 殿
21	かみごおり 上郡	上郡町長 殿
22	くりすがわ 栗栖川	和歌山県林業試験場 殿
23	にいしま 新居浜	新居浜市消防本部 殿
24	なかやま 中山	伊予消防等事務組合伊予消防署中山出張所 殿
25	やはた 八幡	北九州市上下水道局水道部穴生浄水所 殿
26	まえばる 前原	福岡県立糸島農業高等学校 殿

27	おおせと 大瀬戸	西海市 殿
28	うちのうら 内之浦	肝付町役場内之浦総合支所 殿
29	そえだ 添田	添田町浄水場 殿
30	やばけい 耶馬溪	中津市消防署耶馬溪分署 殿
31	ゆや 油谷	長門市消防本部 殿
32	みなまた 水俣	水俣市長 殿
33	いんない 院内	宇佐市院内支所 殿
34	しぶし 志布志	志布志市役所志布志支所 殿
35	だざいふ 太宰府	福岡県保健環境研究所 殿

3. 船舶（気象通報） 5隻

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	船名
1	株式会社グローバル オーシャン ディベ ロップメント	みらい 殿
2	エム・オー・エル・エルエヌ ジー輸送株式会社	アル ビダ 殿
3	太洋日本汽船株式会社	てきさす はいうえい 殿
4	ケイラインシップマネージ メント株式会社	VIRGINIA BRIDGE 殿
5	北海道教育庁	若竹丸 殿

4. 船舶（表層水温・海流通報） 2隻

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	船名
1	高知県水産試験場	土佐海洋丸 殿
2	茨城県水産試験場	いばらき丸 殿

5. 漁船 8隻

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	漁船名
1	東洋漁業株式会社	第十一源福丸 殿
2	龍生水産有限公司	第二龍生丸 殿
3	有限会社事代水産	第十八事代丸 殿
4	岩手県	岩手丸 殿
5	前場 周一 殿操業	第三天祐丸 殿
6	井上 博孝 殿所有	第二十九誉丸 殿
7	島平第一漁業生産組合	第二十八松榮丸 殿
8	有限会社第五良栄丸	第五良栄丸 殿

「気象業務はいま 2014」の刊行について

「気象業務はいま」は、広く国民の皆様にも、気象庁の業務の全体像をご理解いただくことを目的として気象記念日(6月1日)に合わせて毎年刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2014」の主な内容は、次の通りとなっております。構成については、別紙 2 - 2 をご覧下さい。

- ・ 特集「特別警報の開始と新たな気象防災」では、昨年8月30日から運用を開始した特別警報についてその概要を説明しています。また、運用開始後初めて大雨特別警報を発表した台風第18号に伴う広範囲の大雨災害や、大雨特別警報の発表には至らなかったものの狭い範囲で記録的な大雨を観測した台風第26号に伴う伊豆大島の大雨災害について、災害対策の観点から気象現象の推移や気象庁の対応を振り返りました。
- ・ トピックスでは、夏を中心とした高温や渇水、数多くの竜巻の発生、関東甲信地方の記録的な大雪など、この1年の主な自然災害の状況や、気候・観測・火山分野の気象庁の最新の取り組みを掲載しています。
- ・ 第1部「気象業務の現状と今後」では、防災情報をはじめとする各種情報について解説するとともに、気象・海洋や地震・火山などの監視・予測、技術開発といった取り組みを紹介しています。
- ・ 第2部「最近の気象・地震・火山・地球環境の状況」では、昨年の気象災害や地震、火山活動、異常気象などを紹介しています。

「気象業務はいま 2014」は、6月2日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

「気象業務いま 2014」の構成

特集 特別警報の開始と新たな気象防災

第1節 特別警報の開始

- (1) 特別警報の概要
- (2) 特別警報発表時に住民の方にとっていただきたい行動
- (3) 特別警報の発表基準と客観的な指標

第2節 気象災害と特別警報

- (1) 平成 25 年の甚大な大雨災害
- (2) 防災気象情報の認知度調査
- (3) 命を守るための防災気象情報の活用

トピックス

第1節 9月に全国で大きな被害をもたらした竜巻について

第2節 平成 25 年(2013 年)夏の日本の極端な天候と日本近海の海況

第3節 気候変動の見通しと対応

第4節 極端気象に関する最新の研究

第5節 気象観測体制の強化

第6節 火山災害対策のいま

第7節 フィリピンの台風第 30 号による高潮災害とフィリピン気象局への技術支援

第8節 雪の予報の難しさについて

第1部 気象業務の現状と今後

第1章 国民の安全・安心を支える気象情報

第1節 気象の監視・予測

第2節 地震・津波と火山に関する情報

第3節 地球環境に関する情報

第4節 航空の安全などのための情報

第5節 民間の気象事業

第6節 地域の防災力向上への取り組み

第2章 気象業務を高度化するための研究・技術開発

第3章 気象業務の国際協力と世界への貢献

第2部 最近の気象・地震・火山・地球環境の状況参考資料 全国気象官署等一覧、用語集、索引